

Neues in Nara

Nr. 73
2020年10月20日

Japanisch-Deutsche Gesellschaft Nara (JDG-Nara)

奈良日独協会 (会長 河野良文) 奈良市大安寺 2-18-1 大安寺内

Tel/0742-61-6312, Fax/0742-61-0473

<http://www.daijanji.or.jp/jdgn/index.html>

編集委員：林 (hayashiy@zeus.eonet.ne.jp)、峯本 (hmine-24@m3.kcn.ne.jp)



ミュンヘン Viktualienmarkt
の Maibaum

編集委員より：会員の皆様からの積極的なご投稿をお待ちしています！

●行事予定

1. クリスマス会(12月6日)は、三密を避けるため中止します。

2. 大安寺国際縁日コンサート

期日：11月2日(月) 15:00～

演目：案内チラシを添付します。

従来のイベントは中止し、関連行事として大安寺境内で「癒やしとやすらぎのコンサート」(入場料1500円)を開催。コンサート会場ではコロナ禍の終息を願い、各国からの留学生が自国語で「祈りよ届け、世界の人々に！」と書いた絵馬を奉納する。多数の会員の方々のご参加をお願いします。コロナ感染予防対策として、100席限定となっていますので事前に国際縁日事務局(小林)宛に電話(090-4293-2309)にてお参加申込をお願いします。

●行事報告

1. 第26回シュタムティッシュ(オンライン)

10月4日午後3時開催。会員の横山香様(奈良大学文学部史学科准教授)から、「ドイツ語授業における<Landeskunde>」と題して、大学で実践されてきたドイツ語教育の現状と展望について、豊富な映像と具体的な事例を交えてお話し頂いた。オンラインでのシュタムティッシュは初めての試みであったが、理事を含め会員14名が参加し、横山様に周到なご準備を頂き、有意義な会となった。



3. ドイツ料理教室(9月末)は、中止しました。

●会員の皆様へのお願い

コロナは、依然として先の見えない状況が続いており、会員の皆様も何かとご苦勞が多いことと存じます。当会では、恒例のクリスマス会をはじめ多くの行事の中止を余儀なくされております。

かかる状況下、なんとか会員の皆様との交流を進めるべく、苦慮しているのが現状ですが、コロナの影響を回避する方策をとって、年内に映画会を催す計画です(詳細決まり次第ご連絡します)。

会員の皆様方からも、何か良い企画がありましたら是非ともご提案いただきたくお願いします。

●会員だより

上村昂史さんから

「日本とドイツのはざまに生きる」

ものごころついたばかりの1996年、Düsseldorfに引越し、およそ7年を過ごしました。帰国後、日本の一般の高校、大学、大学院に進学しました。再びドイツに戻ったのは2013年で、大学院の留学で1年間Münchenで生活をしました。すでに人生の4分の1をドイツで過ごしている計算です。

その経緯から、私は「日本とドイツのはざまに生きる」という意識を強く持っています。

„Luftbrücke“ということばがあります。もとは1948年6月のソ連陣営によるベルリン封鎖に伴い、米国の提案で始まった空路による物資供給を意味します。

しかし、今では色々な使われ方があるようです。例えば、新型コロナウイルスによる「帰国難民」をチャーター機で送還する時にも使われました。ゆえに、私はこの言葉を「架け橋」と認識しています。

日独交流は、そのはざまに「心の橋」を架けることに重きがあると考えています。ゆえに、この度入会を決意したのも、その考えからでした。日本とドイツを往来して生活したことで、日独交流をより促進させたいと思うに至ったのです。

新興国との関係が強くなっている今、確かに日独交流は薄れつつある印象があります。しかし、2021年には日独友好160周年を迎えます。その間、日本とドイツは様々な交流でお互いを切磋琢磨してきたと私は考えます。ゆえに、日独交流は自分のライフワークと捉え、今後の両国の発展に寄与したく思います。



ミュンヘン郊外のアウトバーン
走行中の筆者



ミュンヘン大学講堂内の
白バラ記念像